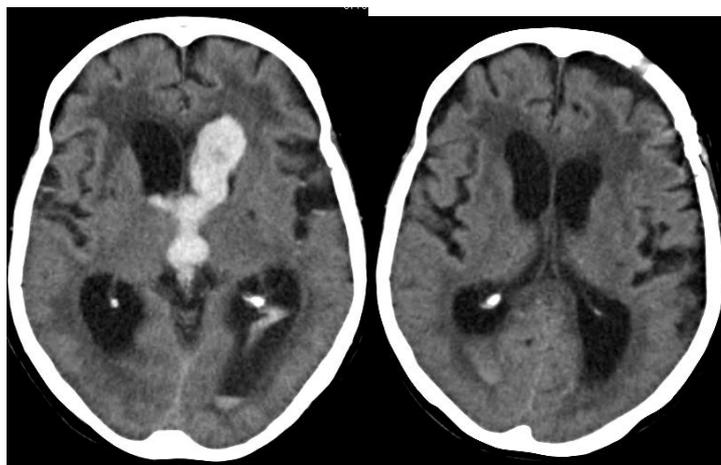


神経内視鏡

内視鏡は“胃カメラ”として良く知られていますが、細長い管を通じて光を出しながら深いところを観察する機器です。脳神経外科領域では、特別細い内視鏡＝神経内視鏡を使って手術を行っています。脳の切開を最小限にして狭い隙間から手術ができ、顕微鏡では観察困難な深い部位の周辺の血管や神経が見えるのでより安全な手術が可能になります。

当院で行っている神経内視鏡を使用した手術には①脳室内血腫の除去術、②下垂体腫瘍摘出、③水頭症やのう胞性疾患の治療などがあります。脳室内血腫の除去術では小さな開頭を行い、脳に細い管を差し込んで留置し、神経内視鏡を挿入して観察します。映像画面をみながら、内視鏡の先端から手術器具を出して血の塊を吸引除去したり、出血部位を電気凝固止血したりします。下垂体腫瘍を鼻の穴から手術する際に、神経内視鏡と顕微鏡を併用して手術を行います。水頭症手術については次に詳しく説明します。



手術前

手術後